

寄稿

「まちの活力へ、幾つもの胎動」

小田原市長 加藤 憲一

この夏、まちを元気にする幾つもの動きを肌で感じ、とても嬉しく、また心強く感じました。

は地元商店会の人たちの大きな励みに。銀座通りを歩行者専用にしてマーケットを展開する企画「軽トラ夕市」。地場野菜や手作りフード、アートやものづくりなど、大型店ではできないハンドメイド感と生活感、路地性。若手店主や小田原が大好きな若者ボランティアの活躍で、開催ごとにパワーアップ。

街なかの様々なお店やカフェ、公民館など十数か所のスペースをうまく活かし繋いだ古本市「小田原ブックマーケット」。いつもよりも文化的で知的刺激に満ちた、手作り感のあ

る小田原のまちの表情を、多くの人たちが愉しんでいました。宮小路地区で「屋台ラーメン」を切り口にした「小田原屋台フェスタ」。懐かしいお店の複製ラーメンを含めた複数の屋台、松原神社やかつての花街の雰囲気など、地域資源を活かした企画。この成功



かとうけんいち
1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長、有限会社あしがら総研代表などを経て、現在小田原市長を務める。妻と子ども2人の4人家族。

小田原屈指の地域資源でもある蒲鉾や干物の集積地「かまぼこ通り」の復権をめざし、若手経営者らが立ち上がったイベント「かまぼこワッショイ」。なりわい交流館や旧魚市場の界

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力
(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F
TEL.0465-21-5260
(月・水・金 10:00~17:00)
<http://www.katoken.info>

限がもつ水産の街らしさに、若手ならではの感性やライフスタイル感で魅力を加え、多くの来訪客を惹きつけるエリアに。いずれも、既存資源を活かしつつ、まちの新たな活力構築へ若い人たちが自発的に練った企画。更なる進化と拡散へ応援を続けます。